

インターネット販売
24時間受付中!

PCでご購入の方はこちら
セブンイレブンの
お支払い・お受取が
新たにスタート!

携帯でご購入の方は
こちらのアドレスから



http://
www.hakataza.co.jp/keitai/

博多座四月特別公演 北島三郎特別公演 六月博多座大歌舞伎

北島三郎特別公演

作品介绍 ▶ 公演日程 ▶ 座席表 ▶ 残席状況



チケット購入についてはこちら

インターネット販売
ご購入の方はこちら

キャスト


北島三郎



山本 陽子 (特別出演)



水町レイコ



大村 崑



大出 俊 (友情出演)

次郎長外伝より
第一部「清水の暴れん坊」 原 譲二：作・演出 安達靖人：演出

あらすじ

♪旅行けば、駿河の国に茶の香り・・・♪と、虎造に名調子で語られた東海道随一の大親分・清水次郎長（北島三郎）。この次郎長には、大勢の頼もしい子分達がいた。ご存知清水二十八人衆である。28人目の子分、ちよる松（白木みのる）もその一人。おかみさん思いのお手伝い、お光（水町レイコ）やお咲（城山美佳子）など、一家はそれを支える若者で活気に溢れていた。ただひとつ、心配なのは病弱な女房・お蝶（山本陽子）のことである。館山寺の温泉へ療養に出掛けたが、いつまでも温泉療養とはいかず、親切な弥兵衛（人見明）の百姓家を拝借し、そのまま病に伏してしまった。手元不如意で満足な治療もさせてやれない次郎長は、進退窮まり、以前助けた保下田の久六（今井健二）に少しの借金を頼む。しかしその舎弟分である布橋の兼吉（船戸順）も一緒になって、久六が十手を預る身であることを理由に、けんもほろろに借金を断る。恩知らずな久六の態度に怒り心頭の清水一家の子分たちは、久六を斬り捨てる。そんな騒ぎの中、お蝶は無念にも息を引き取った。それから1年後のある日、上方から花菱の団五郎（大村崑）が、次郎長の子分になりたいとやってくる。自分の商売を投げ捨て子分志望を訴える団五郎だが、何やらチンプンカンプンである。

一方、親分の代参で金毘羅宮行きを命ぜられた森の石松（北島三郎=2役）は、腕と度胸は一流だが、無類の酒好きで喧嘩っばやい。旅の間は「酒と喧嘩はご法度」との厳命に石松は渋るが、居合わせた団五郎の説得でやっと重い腰を上げる。無事代参も済んでの帰りの道中、大親分・見受山の鎌太郎（北町嘉朗）に誘われ、おたか（白木万理）が切り盛りする居酒屋に寄る。そこで鎌太郎から亡くなった次郎長の女房・お蝶への香典、25両を預かった。鎌太郎とおたかに勧められ、つい酒を飲んでしまった石松は、気分も良くなり浮調子。しかし石松は、その大事な香典を都鳥吉兵衛（沢 竜二）等都鳥三兄弟の情を絡めた芝居に引っ掛かり、貧してしまふ。返済を催促すると、背後から斬りつけられる騙し討ち。傷を負った石松は、次郎長鼎員の小松村七五郎（大出 俊）とその女房のお民（山本陽子=2役）の家に逃れる。迫ってきた都鳥一家が執拗に石松を捜しまわると、お民、そして七五郎の肝の据わった啖呵にほうほうの体で七五郎宅を出て行く。

手当てを受けた石松だが、しかし長居しては兄貴分の七五郎に迷惑を掛けると、傷だらけの身体をおして、単身清水への帰途に着く。危うく難を逃れた石松であったが、村はずれの間魔堂に差し掛かった時に、又も都鳥の追手がせまる。必死の抵抗を試みるが、多勢に無勢。ついに都鳥の刃に倒れてしまう。石松の無念の死を知った次郎長は、一家を引き連れ、仇を討つべく都鳥三兄弟の下へと東海道を急ぐのであった。


みどころ


今回サブちゃんが演じるのは、東海道一の大親分・清水の次郎長と、酒好きだが義理人情に厚い次郎長の子分・森の石松の2役。誰からも慕われた幕末のヒーローたちを見事な替わり身で熟演します。共演は、特別出演に山本陽子を迎え、さらに大村崑、大出俊、北島の愛娘・水町レイコらが華を添え、記念公演にふさわしい豪華な顔ぶれでお贈りします。涙を誘う名シーンを随所に織り込みながら、ご存知名調子に迫力の太立廻り等、見どころ満載の感動の名舞台です。

こころ
第二部 ヒットパレード「北島三郎、魂の唄を…」
原 譲二：構成・演出 大野拓克：演出



芸道50周年記念にふさわしく、500曲を越えるレパートリーの中から、選りすぐった30曲以上を熟唱する充実のオンステージ。北島三郎が歩んできた、その堂々たる軌跡を実感することができる。あるときは袴姿で、またあるときは、タンディなスーツ姿で登場し、歌と歌との間では、軽快なトークでも楽しませてくれる。また、今回は、おなじみの曲はもちろんのこと、最新曲まで惜しみなく披露。

“北島艶歌”の真髄を味わうことができる。

ショーの後半「北の漁歌」で登場する、北の荒海をうねりながら突き進む、巨大漁船・北島丸の演出は、北島公演の名物ともいえる。

そして、もう一つ。この公演になくてはならないのが、フィナーレの北島まつり。この、心沸き立つような高揚感と楽しさは、決してほかでは味わうことができない。名曲「まつり」にあわせ、総勢100名をこえる出演者、そして客席までもが一体となって北島とともに歌い、踊る。毎年登場する趣向をこらした山車も、今年は何になるのか、こちらもお楽しみに。